



英語の本を読む（多読図書）

- ✓ 5Fマルチメディアゾーンの英語学習コーナーにある『多読図書』の書架には、英語で書かれた読み物や小説をレベル別に配架しています。
- ✓ 図書と付録のCDは貸出できます。
- ✓ 電子ブックのシリーズもあります。

多読のポイント

- ▶ 多読は、英語を大量に読む（＝多読）ことで、英語に親しみ、読む習慣をつける学習方法です。簡単で読みやすい本から読み始めて、徐々にレベルを上げていきます。多読を継続すれば、目標にしている本も読めるようになります。
- ▶ 多読学習をするうえでのポイントは、次の3点です。

1. 辞書を使わずに読めるレベルから

まずは初級から読んでみましょう。何冊も読むうちに読むスピードがあがり、どんどん英語に慣れてくるのが実感できます。

2. わからない単語が出てきても気にせずに

わからない単語を全て辞書で引こうとせず、読み飛ばしながら進めましょう。

3. 楽しみながら続けよう

面白くないと思ったら、別の本にチャレンジ。レベルアップを急ぎすぎるのも挫折のもとです。継続することを目指しましょう。

配架場所・配架方法

5F英語学習コーナーにある『多読図書』の書架に、英語の読み物をまとめて配架しています。

- ▶ 図書とその付録は貸出できます。5Fマルチメディアカウンターにお申し出下さい。
- ▶ 図書の背には「5F多読」のシールと、レベル別の丸シールを貼ってあります。
- ▶ 各レベルの中は、請求記号順に並べています。

<レベルとシールの色>

	初級 1	初級 2	中級 3	中級 4	上級 5	上級 6
GRのレベル	～1	2	3	4	5	6～
シールの色	緑	青	白	黄	桃	赤

※GR(Graded Readers)以外の図書のレベルは書評やブックガイドを参考にしています

本の種類

▶ Graded Readers (GRと略します)

英語が母国語でない英語学習者用に、使用する単語を制限して量や文法事項を調整し、読みやすくしたものです。Penguin Readers, Oxford Bookworms Library, Cambridge English Readersなどのシリーズがあり、各シリーズでレベルが分けられています。内容は、小説、映画のノベライズ、名作の簡略版、ノンフィクションなど、多岐にわたります。

▶ Paperback ほか

ニューベリー賞受賞作などの海外でも評価の高い児童小説や、村上春樹『ノルウェイの森』吉本ばなな『キッチン』などの日本文学作品の英訳を中心に揃えています。

本を選ぶ

▶ 同じシリーズの同一レベルの中でも、読みやすさが大きく異なることがありますし、個人によっても違います。レベルの数値は参考程度にしてください。

▶ まずは、初級のなかでも易しいものから始めましょう。『Days with Frog and Toad』他Arnold Lobelの作品や『The Monkey's Paw』(Oxford Bookworms Library Stage 1) など、簡易な英語で書かれていながら面白いものがあります。小説ばかりでなく、ノンフィクションもありますので、自分の読みやすいものを選んでください。

▶ 急いでレベルをあげると、読むのが負担になって続けられません。たとえば、100万語多読法(※)では、初級・中級レベルの本を100万語程度(約150冊)読み、その後レベルをあげていくことを勧めています。※多読研究会などがすすめる多読法の一つ

参考になる本・サイト

▶ 多読の方法や本を選ぶときの情報には、以下の資料やサイトが参考になります。5F英語学習コーナーには、この他にも多読学習法に関する図書があります。

資料・サイト名	配置場所・URLなど
『快読 100万語!ペーパーバックへの道』酒井邦秀著. 筑摩書房, 2002. 6.	5F英語学習コーナー 830. 7//SA29//4094
『英語多読完全ブックガイド : めざせ!1000万語』古川昭夫他編著. 改訂第3版、コスモピア, 2010. 4.	5F英語学習コーナー 830. 7//F93//8717
『多聴多読マガジン』コスモピア発行	5F語学雑誌コーナー
SSS 英語多読研究会 HP 「めざせ 100万語!多読で学ぶ SSS 英語学習法」(書評システム)	URL: https://www.seg.co.jp/sss/

電子ブック

「Macmillan Readers」など、電子ブックで利用できる多読図書もあります。

▶電子ブックはOPAC、電子リソース検索(ライブラリーサービスHP左メニューの”資料・情報の入手”)から検索できます。

▶学内LANに接続されたパソコン等で閲覧することができます。

▶VPN接続サービスを利用すると、自宅等学外からでも利用することができます(学内者限定)。